

講義名	臨床心理学			授業形態	
担当教員	岩崎 久志	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング	
主題と概要					
近年、様々な社会現象と関連して「こころ」の問題に対する興味が高まっており、臨床心理学の応用分野も拡大してきている。臨床心理学の知識は、単にヘルスケアの基礎としてだけでなく、広くヒューマンサービスの領域で仕事をする場合にも不可欠と思われるが、必ずしも正確に理解されていないのが現状のようである。本講では、臨床心理学の歴史や対象、方法、そして具体的な技術等について学ぶことを主題とする。					
到達目標					
臨床心理学の歴史や対象、方法、そして具体的な技術等について学ぶことを通して、対人援助者に求められる基本的な援助技術とその姿勢を身につけることができる。					
提出課題					
授業の中で指示する。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
課題の提出や小テストを実施した直後の授業において、講評や特徴的な記述内容等の紹介を行う。それに引き続いて、解説や質疑応答を実施する。					
評価の基準					
定期試験（50％）、授業中に課す小レポート（30％）、授業への積極的参加度（20％）を総合的に評価する。 課題や小レポートの内容等を踏まえて総合的に判断する(予定)。					
履修にあたっての注意・助言他					
本講義は、看護・医療・福祉さらに教育といった広義の対人援助に関心を持つ人の受講を期待する。教科書に沿って進めていくため、毎回携行すること。また、心理学の基礎に関する授業をすでに履修済みであることが望ましい。					
教科書					
『対人援助に活かすカウンセリング・チーム支援,多職種連携に必要なコミュニケーション技術』		岩崎久志	晃洋書房	2640	9784771033382
参考図書					
.なし.					

その他		
講義内あるいは事前に紹介する。		
授業計画		
1 臨床心理学とは 2 臨床心理学の歴史 3 対人援助に活かす臨床心理学 4 臨床心理学と関連領域 5 対人援助職としての基本 6 主要理論（精神分析） 7 主要理論（米談話中心療法） 8 主要理論（行動療法） 9 その他の療法（認知行動療法など） 10 援助の方法 11 援助の方法 12 チーム支援とコミュニケーション技術 13 心理アセスメントの基礎 14 臨床心理学の課題 15 まとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
人の心のありように関心を持ち、授業に臨むよう心掛けてほしい。基本的には教科書に沿って授業を進めていくため、予習をする目安としても活用してほしい(毎回2時間程度)。また、授業の中でも、随時に予習しておくべき箇所や事項について、該当部分を指示する。復習についても、基本的には授業においてポイントとなる項目や事象を提示・紹介していく。授業で学んだ事柄を、知識および技能の両面にわたって習得するように努めてもらいたい(毎回2時間程度)。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
人間の精神機能と心理学の研究法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に 分析し予測することができる。 コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を 応用することができる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
授業では、説明のあと質問をしたりコメントを求める。そのため、レスポンスを使って意見を述べてもらうことがある。		
実務経験の有無及び活用		
「実務経験あり」 臨床心理士としての心理臨床現場における支援経験に基づき、具体的な理論の実践における活用方法や事例の紹介を行う。		
備考		
授業の開始時までには、教科書を手入れし、毎回手元に準備しておくこと。		